



図書館だより

2022年
6月24日発行

秋草学園高等学校 図書館

関東地方の梅雨入りが発表されてまもなく3週間。肌寒さを感じる日も多かったですが、みなさんは雨の日をどんな風に過ごしているのでしょうか。室内で過ごす時間が増えて、何か本を読もうかなという気持ちになっている人がいてくれたら嬉しいです。雨の日にしっかりと楽しむ読書も楽しいものですし、反対にカラッとした気分になれる本で気分転換してみるのもいいでしょう。ガラス張りになった館内の閲覧席で雨の降る様子を横目に放課後の読書時間を過ごしていきませんか。

6月29日は星の王子さまの日

6月29日は『星の王子さま』の作者アントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリの誕生日です。彼は1900年6月29日にフランスのリヨンで生まれました。彼は飛行士でもあり、リビア砂漠に不時着した事件が「星の王子さま」のヒントになったといわれています。

953-サ『星の王子さま』 サン＝テグジュペリ || 著
内藤 濯 || 訳 岩波書店

世界中で100以上の言語に訳され、多くの人に愛されてきた作品。小さな星の王子さまが自分の星を離れ、色々な星の色々な大人と出会います。純粋な心で感じたままを口にする王子さまの言葉は私たちが忘れかけていた大切なことを思い出させてくれます。

『星の王子さま』は何人も訳者さんによって訳され出版されています。読み比べてその違いを楽しむのもおすすめ!!



440-ア『星の王子さまの天文ノート』
縣 秀彦 || 監修 河出書房新社

星の王子さまと一緒に宇宙をめぐり、広い宇宙の不思議と魅力に触れる1冊。星空や宇宙に興味がある人、星の王子さまが好きな人、両方の人に楽しんでもらえる内容です。宇宙も星の王子さまも知れば知るほど奥深く、読んでいく内に星空を見上げたくなくなってきます。

627-モ『ときめく薔薇図鑑』

元木 はるみ || 文 大作 晃一 || 写真 山と溪谷社

『星の王子さま』において重要な存在である薔薇の花。星の王子さまと彼女(薔薇)のやりとりは読む人の心に残ります。なんと薔薇は現在約3万種類もあるといわれているのだそう。花びらの色や形、香り、味わい、様々な角度からその魅力をたっぷり楽しめる1冊。

雨の音を聴きながらしっかりと読書

913.6-1『きみの声を聞かせて』

小手 繭 るい || 著 偕成社

突然声が出なくなった葉香。胸のなかに、頭のなかに、心のなかに言葉はあるのに声が出ない。孤独に埋もれる葉香に光を届けたのはアメリカに住むピアノ弾きの少年だった。彼の作る音楽に心を動かされた葉香は詩を彼に送り、詩と音楽による二人だけの文通が始まる。

913.6-ミ『静かな雨』

宮下 奈都 || 著 文藝春秋

やさしい匂いに足を止めた僕はものすごくおいしいたいやきと、こよみさんに出会った。その両方に惹かれ、たい焼き屋に通う内に僕はこよみさんとの距離を縮めていく。しかし、事故が原因でこのみさんの記憶に異変が起こる。ふたりはこの現実とどう向き合っていくのか。

新着コーナーの気になる本

913.6-ア『俺ではない炎上』

浅倉 秋成 || 著 双葉社

著書『六人の嘘つきな大学生』が2022年本屋大賞にノミネートされた朝倉秋成さんの新刊。今回は身に覚えのない事件の犯人に疑われた男が主人公です。本人が知らない間にSNSで拡散されていく情報の怖さがリアルに描かれています。真犯人は一体誰なのか!?

913.6-ヤ『花屋さんが言うことには』

山本 幸久 || 著 ポプラ社

ブラック企業を退職した紀久子は縁あって花屋でアルバイトとして働くことに。そこで紀久子は花を求めてやってくる人たちの人生のドラマに触れながら、夢から遠ざかっていた自分自身を見つめ直します。花や花言葉をもっと知りたくなっていく本でもあります。

司書の今月はこの本読みました

芥川賞作家の川上未映子さんのエッセイを初めて読みました。エッセイからは小説以上に著者の人柄がよく伝わってくるものですが、川上さんのさっぱりとした言い回しとテンポのよさにハマりました。B914.6-カ『おめかしの引力』朝日新聞出版では、自分好みの1着と出会えた時のときめき、レースやリボンに対する愛、試着した時の「あれ?思っていたのと違う…」という衝撃など、憧れだけでなく失敗もひっくるめた自らのおめかしの歴史と魅力が語られています。おめかしの楽しさを思い出し、キラキラした気持ちを分けてもらいました。【今井】